

養父市教職員研修会 11 / 29

市内の先生方参観の中、4年生の子どもたちが、明星大学教授 白石範孝先生の授業を受けました。白石先生から、自分の思いを自分の言葉で話せる素直な子どもたちだと評価いただきました。



人権作文発表 人権講演会 12 / 14

ノビアホールで、人権作文発表と人権講演会がありました。人権作文は、6年 田中琉偉さん、9年 田中とあさんが発表しました。児童生徒一人一人が、人権について考え、作文を書きました。2人とも、その代表として、堂々と発表しました。講演会は、「インターネット・スマートフォンを安全に使おう！」との演題で、京都府警察ネット安全アドバイザーの石川千明さんに講演いただきました。今では当たり前にあるインターネットの危険性、安全な使い方についてお話しいただきました。大人も子どもも学べる講演でした。



「店員さんに娘が注意された際の母親の対応」(X旧Twitterより)

X(旧Twitter)で見つけた話題を要約して紹介します。

娘が、お店で触ってはいけないものを触ろうとして、店員さんに「触っちゃダメ」と注意を受けた。母親は店員さんに、「すみませんでした」と頭を下げ、娘に「目を離してごめんね。それで、いつも言っているけど、お店にあるものはお店の大切なものなので、触ったらダメ」と伝えた。その後、店員さんに、「大きな声を出してごめんね」と言ってもらったので、「私も目を離して申し訳なかつたです」と謝った。娘が、「ママあのね、さっき怒られて怖かった」と言ったので、母親は、「それは違う。大きな声に驚いたんでしょ。注意されて嫌だった気持ちと、大声に驚いて怖かった気持ちはちゃんと分けなさい」と言った。さらに、「謝った店員さんにママは謝った。あなたも『触ろうとしてごめんなさい』が言えたらよかったね」と伝えた。

「注意されて嫌だったことと大声に驚いたことを一緒にしてしまうと、『注意されて怖かった』になって、注意をしてくれた人を責めてしまう。これは違う。ちゃんと分けて考えよう。」と話す母親。

大人でも子どもでも、やろうとした事をいきなり注意されると悲しいので、気持ちの整理が難しい。でも、全部一緒に考えると間違った解釈になってしまうので、ちゃんと分けて考えるやり方を身に付けて行かないといけない。

「思い」を整理するって、難しいですが、大切なことだと思います。

